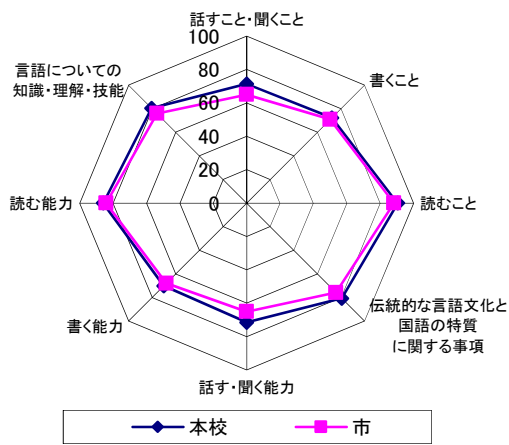


宇都宮市立横川東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	71.4	65.0	62.9
	書くこと	72.2	70.9	71.3
	読むこと	90.5	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.7	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	71.4	65.0	62.9
	書く能力	70.1	68.0	68.0
	読む能力	85.9	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	80.4	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

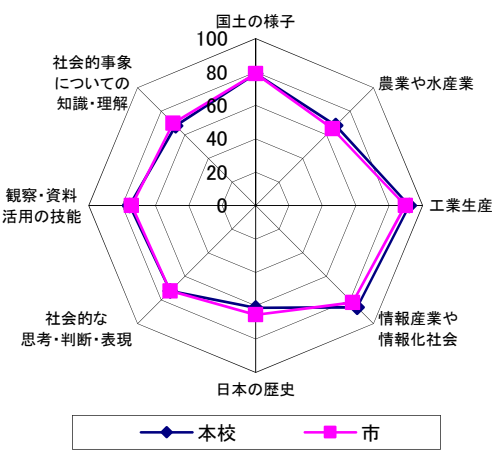
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いの内容を聞き取る問題については、市の平均より6ポイント以上上回っており、正答率も80%以上と高い。 ●しかし、聞き取った内容に対して、自分の意見を書く質問においては正答率が45.3%と低い。	・ただ聞くだけでなく、聞いたことから考える、自分の意見をもちながらやり取りをするなど、聞いたことを活用するような学習を話し合いなどの場で意図的に設定していくことで定着を図る。 ・すぐに意見を求めるだけでなく、ノートなどに時間を取って自分の考えを書かせてから話し合いをする活動も、意見を即座に言えない児童には有効である。
書くこと	○指定された文字数でまとめることでは、校内正答率が82.9%で、市の平均より8.6ポイント上回っている。 ●記事を読んで意見文を書く問題においては、「資料の内容を読み取って文章に書き表すことができる」のは57.0%の児童が、「内容を読み取って文章に適切に書き表すことができる」のは50.0%の児童ができており、約半数の児童はできていない。	・新聞や資料の読み取りを通して、何が分かったか、どのようなであったかをつかむ力を付けるために、必要な情報だけでなく、様々な情報をつかむ力を付けさせたい。そのために自分の読み取りだけでなく、友達の読み取りにも注目させたい。 ・意見文を書くときには、根拠が明確でない文章でなく、他の人が読んでわかる文章を書くことを意識させる。また、解答の内容だけでなく問題のねらいに即した答え方ができているかにも留意させた記述を心掛けさせたい。
読むこと	○物語の内容を読み取ることについては正答率88.4%で市の平均より1.0ポイント上回っている。 ○説明文の内容を読み取ることについては正答率93.2%で市の平均より3.5%上回っている。	・音読や読書活動において一つの文を深く読んだり、様々な文章に触れてきた。今後も、これらの活動が続けていくとともに、授業においては、様々な読みを深めていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み取りでは、正答率91.1%で市の平均を2.6ポイント上回っている。 ○漢字の書き取りでは、正答率71.8%であるが、市の平均を10ポイント上回っている。 ●文の構成(主語、述語など)を問う問題では正答率が58.2%と市の平均は上回るものの、全国平均73.8%とはかけ離れた数字になっている。	・漢字の読み書きはこれまで通りドリル類やミニテストなどで定着を図る。 ・文の構成については、普段の生活では意識する場面がほとんどないため、授業などで意識的に定着を図る必要がある。また、文の関わりや敬語なども同様である。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	79.0	79.1	74.9
	農業や水産業	67.9	65.1	63.7
	工業生産	92.1	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	86.1	82.2	73.1
	日本の歴史	61.3	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	72.3	72.2	69.0
	観察・資料活用・技能	75.5	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	67.7	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

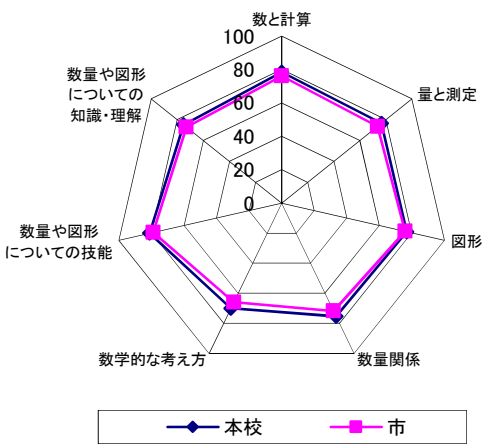
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	●領域別では、市の平均を0.1ポイント下回った。 ●日本の周辺の海洋名では市の平均より0.7ポイント下回った。 ●日本の国土に対する理解も4.4ポイント下回った。 ○主な国の名称と位置については0.7ポイント上回った。	・引き続きグラフや表から、それが何を意味しているのか、どのような特徴があるのかを意識的に考えさせる場を多く設定し、資料を活用する技能を高めていく。 ・地名の理解や国の名称、位置について選択するような問題では、単なる暗記にとどまるのではなく、地域の特色や国の特徴などにも触れ、より発展的な問題にも応用できる力を付けさせたい。
農業や水産業	○領域別では、市の平均を2.8ポイント上回った。 ●日本の米作りの問題点について、複数の資料を読み取り考える内容についてが0.6ポイント下回った。 ○食料自給率と食料輸入額の関係について、複数の資料を読み取り考える内容では8.1ポイント上回った。	・全体的に米の生産分布や輸送、販売について理解している児童が多いが、品種改良の目的や輸出入の問題になると、児童にとって身近な内容でなくなるため、正答率が低くなったことが考えられる。資料を読み取るだけでなく、資料から分かったことを文章でまとめていく活動を展開し、より児童が理解を深められるようにする。
工業生産	○領域別では、市の平均を2.4ポイント上回った。 ○優れた製品を生産するための工夫や努力では、3.2ポイント上回った。 ○工業製品の種類についての理解では、1.5ポイント上回った。	・工業生産については、正答率も90%を超え、大方理解していると考えられる。引き続き表やグラフから読み取り表現する力を養うためにも、様々な表やグラフでの表し方に慣れる必要がある。また、表や図の読み取りの方法についても授業で取り入れ、より確かな理解力を養わせたい。
情報産業や情報化社会	○領域別では、市の平均を3.9ポイント上回った。 ○マスメディアの種類の理解については、6.0ポイント上回り、91パーセントを超える正答率であった。 ○医療での情報ネットワークの利便性については、1.8ポイント上回った。	・身近な暮らしの中にある情報利用やネットワークに関する内容は理解していると考えられる。今後もこの分野の理解を深めるために、デジタル教科書の効果的活用や動画資料、写真資料を計画的に活用し、児童自身の身近な生活と関連付けながら、視覚的に理解を深めたい。
日本の歴史	●領域別では、市の平均を4.1ポイント下回った。 ●どの時代においても市の平均を下回っている項目が多い。 ●特に明治、大正時代の理解度が低く、市の平均を約4ポイント下回った。	・時代の流れについて基本的な知識は理解しているものの、一つ一つの出来事に関する理解の深まりに関しては十分とは言えない。また、近代史など正答率が低い分野があるので、出来事の背景などについて再度確認したり話し合う場面を取り入れたりし、身近なこととして考えられるようにし、理解を深めたい。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.5	76.2	72.9
	量と測定	76.7	73.6	70.6
	図形	76.9	76.0	72.1
	数量関係	75.3	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	70.0	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	81.1	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	75.3	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

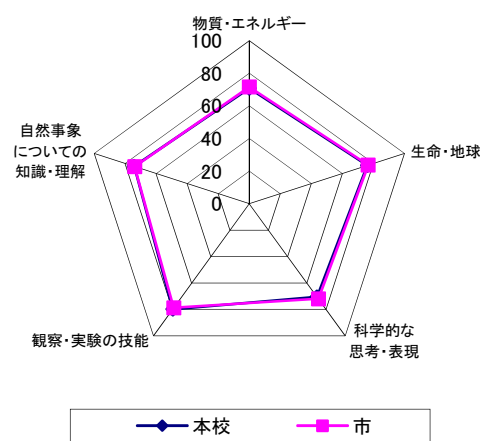
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市の平均を2.3ポイント上回っている。 ○小数第二位÷小数第一位の計算は7ポイント、問題の場面を理解し、白と黄色の球根が経てに4回並ぶわけを説明する問題では14.3ポイント、市の平均を上回っている。 ●分数同士のわり算の計算は1.9ポイント市の平均を下回っている。	・計算力の向上を目指して、年2回計算オリンピックを実施してきた。また、習熟度別編成で個別指導を行い、つまづきを解消することに取り組んできた。引き続き、計算力の向上を目指した取組を継続して行っていきたい。
量と測定	○平均正答率は、市の平均を3.1ポイント上回っている。「面積と体積」に関する問題はどの問題も80%以上の正答率となっている。 ●教室の面積と児童の人数から1㎡あたりの人数を求める式を選ぶ問題では、市の平均を7.5ポイント上回っているが、正答率が38.0%と同領域の問題の中でも特に低くなっている。	・単位量あたりの大きさを問う問題では、求めたい単位を確認して立式する必要がある。公式を覚えるだけでなく、問題を正しく捉えて活用することができるよう習熟を図れるようにしていきたい。
図形	○合同な三角形の作図は、市の平均を0.9ポイント上回っている。 ●線対称な図形の対称の軸を選ぶ問題は、正答率が68.4%と特に低くなっている。	・線対称の問題の誤答を分析すると、対称の軸を重複して数えたり、二等辺三角形の個数と誤認したりしていた。問題を読み取る際には問われているものにアンダーラインを引いたり、重複を避けるために図形に印をつけたりするなど問題を丁寧に取り組むように習慣付けたい。
数量関係	○平均正答率は、市の平均を3.5ポイント上回っている。特に、帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題では、市の平均を6.1ポイント上回っている。 ●調べたい分量と作りたい分量の割合(比)を読み取り、足りない材料の量を求める問題は市の平均を8.8ポイント上回っているが、正答率は38.6ポイントと同領域の問題の中でも特に低くなっている。	・割合と比の問題の誤答を分析すると、比の計算の仕方が定着していない点が課題であると考えられる。普段から類似する問題を解いたり、自主学習で復習したりすることで学習内容の定着を図っていきたい。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.9	71.6	67.4
	生命・地球	76.0	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	70.5	72.1	68.8
	観察・実験の技能	79.8	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	74.2	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○ほぼ市平均正答率と同様になっている。 ○「電流のはたらき」「物の燃え方」に関する問題では正答率が高かった。 ●「物の溶け方」「水溶液の性質」に関する問題では、他と比べて60%前後と低かった。 ●知識を問う問題の正答率は高く、根拠を説明する問題では正答率が低いという傾向が見られる。	・実験の内容と結果の関連性が理解できるよう指導を工夫改善していく。実験の目的、その実験結果から導き出せる事実までの思考のプロセスを、児童の言葉を用いながら丁寧にまとめさせたり、段階に応じて、実験方法を自ら考えさせたり、根拠をもって予想を立てさせたりして見通しをもって取り組ませる。
生命・地球	○ほぼ市平均正答率と同様になっている。 ○「植物のつくりとはたらき」「月と太陽」に関する問題では正答率が高かった。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」に関する問題では、他と比べて正答率50%未満と低かった。 ●知識を問う問題の正答率は高く、根拠を説明する問題では正答率が低いという傾向が見られる。	・それぞれの単元を理解している一方で、複数の知識を関連させて考察する力には改善する余地が見られる。学習のまとめとして図や絵を使ってレポートをまとめるなどして、学習内容を整理したり関連付けたりする機会を設ける。また、映像資料を今まで以上に活用し、視覚的に理解させる環境も整える。

宇都宮市立横川東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着と主体的な学習態度の育成	「朝一学習」(月・水・金:読書, 火:国語, 木:算数)を日課表に位置付け, 基礎基本の定着・進んで学習に取り組む習慣付けを図る。	学習と生活のアンケートから, 学習に対して「自分から進んで取り組んでいる。」児童は, 平均86%であり, 学年間の差はあるが, 良好な結果であった。
目標の明確化と学習を振り返る活動の充実	学習のめあてを明確にし, 授業を構造化することによって, 児童自身が学習を振り返りやすくし, 次の学習への意欲付けを行う。	「勉強が好きですか。」の質問の肯定的回答割合は82.9%, 「勉強をしていて, おもしろい, 楽しいと思うことがある。」児童は, 平均92%と高く, 学習に対して良好な意識が育まれていることが分かる。
思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に人に伝える「説明」「話し合い活動」の充実	記述式の問題に慣れることやいろいろな分野の情報や活字に触れさせることにより語彙を広げたり, 身に付けたりさせる。算数では, 文章を読んで図式化するなど, 思考を助ける活動にも取り組むようにする。	学習内容定着度調査では, 国・社・算で「活用」の平均正答率は市を0.5～4.5ポイント上回っている。思考力・表現力が向上していることがうかがえる。学習と生活のアンケートの「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」児童の割合は, 平均84%を超えた。継続して取り組んでいきたい。
家庭学習の充実	「家庭学習の手引き」を活用して, 計画的な家庭学習を行うことができるような働きかけや児童の取り組み・努力への称賛等, 個々の児童に応じた支援への理解と協力を得よう努力する。	「宿題」についての肯定的回答割合は, 平均92%を超え良好であるが, 否定的な回答も約10%ある。個人差があることが分かる。「自主学習」については4年生以上は市の平均を上回っている。学年が上がるほど肯定的回答の割合は上昇し, 6年生では88.1%の児童が自主学習に取り組むことができる。今後も家庭との連携に力を入れて取り組んでいきたい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「朝一学習」の時間を位置付け, 全校体制で取り組むことによって進んで学習に取り組む習慣化を図ることができた。ただし, 内容や方針にばらつきが見られたので, 共通理解の場を設け, 取り組みを充実させていきたい。
- ・「横東小スタンダード」の振り返りから, 学習に関する基本的なスキル指導が十分でない項目があることが分かった。来年度は児童の個人差に対処する内容を重点項目を設定し, 基本的な学習スキルの定着に力を入れたい。
- ・学校課題の振り返りアンケートから, 学習のめあての明確化や振り返る活動の実践に対しての教員の意識が向上したことが分かった。今後は更に, 次の学習に見通しをもたせることや学んだことを自分の言葉でまとめることなど, 思考力・表現力を伸ばす指導に取り組んでいきたい。
- ・学習と生活のアンケートの「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」児童の割合は, 平均84%を超えた。継続して取り組んでいきたい。
- ・学校課題研究を通して, 「主体的な学び」「対話的な学び」を意識した発問や指示に努めることができたがまだ十分とは言えない。さらに研究を進める必要がある。